

2020年度キャリアデザイン学部

キャリア体験特別入試（自己推薦）・グローバル体験公募推薦入試

小論文 問題

次の文章は、社会学者で元東京大学教授でもある上野千鶴子さんが、平成31年度東京大学学部入学式において述べた祝辞の一部です。よく読んで、以下の二つの問いに答えなさい。

ご入学おめでとうございます。あなたたちは激しい競争を勝ち抜いてこの場に來ることができました。その選抜試験が公正なものであることをあなたたちは疑っておられないと思います。もし不正であれば、怒りが湧くでしょう。が、しかし、昨年、東京医科大学不正入試問題が発覚し、女子学生と浪人生に差別があることが判明しました。文科省が全国81の医科大・医学部の全数調査を実施したところ、女子学生の入りにくさ、すなわち女子学生の合格率に対する男子学生の合格率は平均1.2倍と出ました。問題の東医大は1.29、最高が順天堂大の1.67、上位には昭和大学、日本大、慶応大などの私学が並んでいます。1.0よりも低い、すなわち女子学生の方が入りやすい大学には鳥取大、島根大、徳島大、弘前大などの地方国立大医学部が並んでいます。(略) この数字をどう読み解けばよいでしょうか。統計は大事です、それをもとに考察が成り立つのですから。

女子学生が男子学生より合格しにくいのは、男子受験生の成績の方がよいからでしょうか？全国医学部調査結果を公表した文科省の担当者が、こんなコメントを述べています。「男子優位の学部、学科は他に見当たらず、理工系も文系も女子が優位な場合が多い」ということは、医学部を除く他学部では、女子の入りにくさは1以下であること、医学部が1を越えていることには、なんらかの説明が要することを意味します。事実、各種のデータが、女子受験生の偏差値の方が男子受験生より高いことを証明しています。(略)

これまであなたたちが過ごしてきた学校は、タテマエ平等の社会でした。偏差値競争に男女別はありません。ですが、大学に入る時点ですでに隠れた性差別が始まっています。社会に出れば、もっとあからさまな性差別が横行しています。東京大学もまた、残念ながらその例のひとつです。学部においておよそ20%の女子学生比率は、大学院になると修士課程で25%、博士課程で30.7%になります。その先、研究職となると、助教の女性比率は18.2%、准教授で11.6%、教授職で7.8%と低下します。これは国会議員の女性比率より低い数字です。女性学部長・研究科長は15人のうち1人、歴代総長には女性はいません。(略)

あなたたちは選抜されてここに來ました。東大生ひとりあたりにかかる国費

負担は年間五百万円と言われています。これから4年間すばらしい教育学習環境があなたたちを待っています。そのすばらしさは、ここで教えた経験のある私が請け合います。あなたたちはがんばれば報われる、と思つてここまで來たはずですが、冒頭で不正入試に触れたとおり、がんばってもそれが公正に報われない社会があなたたちを待っています。そしてがんばったら報われるとあなたが考えることそのものが、あなたがたの努力の成果ではなく、環境のおかげだったことを忘れないようにしてください。(略)

あなたたちががんばりを、どうぞ自分が勝ち抜くためだけに使わないでください。恵まれた環境と恵まれた能力とを、恵まれないひとびとを貶めるためではなく、そういうひとびとを助けるために使ってください。そして強がらず、自分の弱さを認め、支え合つて生きてください。

第一問 現在の日本社会においては、「機会が平等であるならば、結果として格差が生じることは仕方がない」と考える人が増えてくると指摘されています。こうした考え方と傍線部に見られる上野さんの考え方の関係について、二〇〇字以内で説明しなさい。(縦書き。句読点も字数に加える。)

第二問 この式辞を通して、若い人たちの生き方に関して、上野さんが伝えようとしているメッセージは何でしょうか。そのことについてのあなた自身の意見を四〇〇字以内で述べなさい。(縦書き。句読点も字数に加える。)

(注) 上野さんの意見への賛同を求めているわけではありません。意見を踏まえたうえで、賛同するにせよ、そうでないにせよ、論理的で説得力のある答案の作成を心がけてください。